

生活援助従事者研修

科目名	職務の理解(T第一章 介護の仕事とは)			
到達目標	○研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージをもっと実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。			
指導の視点	○研修課程全体(59時間)の構成と各研修科目(9科目)の相互の関連性の全体像をあらかじめイメージできるようにし、学習内容を体系的に整理して知識を効率・効果的に学習できるような素地の形成を促す。 ○視聴覚教材等を工夫するとともに、必要に応じて見学を組み合わせるなど、介護職が働く現場や仕事の内容を、出来るかぎり具体的に理解させる。			
授業項目	時間数	通学	通信	学習のポイント
多様なサービスの理解 (T 第一節 介護サービスの種類)	1.0	1.0	0.0	・介護保険による居宅サービス ・介護保険外のサービス
介護職の仕事内容や働く現場の理解 (T第二節 介護の仕事を知る)	1.0	1.0	0.0	・居宅の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ・居宅の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ ・生活援助中心型の訪問介護で行う業務の範囲(歩行等が不安定な者の移動支援・見守りを含む)
授業時間数合計	2.0	2.0	0.0	

科目名	介護における尊厳の保持・自立支援 (T第二章 介護で大切な視点)			
到達目標	○介護職が、利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解する。			
指導の視点	○具体的な事例を複数示し、利用者およびその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアを行うことの違い、自立という概念に対する気づきを促す。 ○具体的な事例を複数示し、利用者の残存機能を効果的に活用しながら自立支援や重度化の防止・遅延化に資するケアへの理解を促す。 ○利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由について考えさせ、尊厳という概念に対する気づきを促す。 ○虐待を受けている高齢者への対応方法についての指導を行い、高齢者虐待に対する理解を促す。			
授業項目	時間数	通学	通信	学習のポイント
人権と尊厳を支える介護 (T第一節 利用者の尊厳を支える)	3.5	3.5	0.0	・人権と権利擁護 ・エンパワメント ・尊厳とプライバシーの保護 ・ICF ・QOLとノーマライゼーション ・虐待防止・身体拘束禁止
自立に向けた介護 (T第二節 利用者の自立を支える)	2.5	2.5	0.0	・自立支援 ・介護予防
授業時間数合計	6.0	6.0	0.0	

科目名	介護の基本 (T第三章 介護の仕事の基本)			
到達目標	○介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解する。 ○介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援をたらえることができる。			
指導の視点	○可能な限り具体例を示す等の工夫を行い、介護職に求められる専門性に対する理解を促す。 ○介護におけるリスクに気づき、緊急対応の重要性を理解するとともに、場合によってはそれに一人でも対応しようとせず、サービス提供責任者や医療職と連携することが重要であると実感できるように促す。			
授業項目	時間数	通学	通信	学習のポイント
介護職の役割、専門性と多職種との連携 (T第一節 介護の専門性と多職種連携)	0.5	0.5	0.0	・介護の環境 ・介護の専門性 ・介護にかかわる職種
介護職の職業倫理 (T第二節 職業倫理)	1.5	1.5	0.0	・専門職の倫理の意義 ・介護の倫理と社会的責任
介護における安全の確保とリスクマネジメント (T第三節 安全の確保)	1.0	1.0	0.0	・介護における安全確保と事故予防 ・感染対策 ・緊急時の対応
介護職の安全 (T第四節 健康管理)	1.0	1.0	0.0	・介護職が気をつけるべき健康管理について学ぶ ・ストレスマネジメントの重要性を理解する ・食中毒、手洗いの基本を学ぶ
授業時間数合計	4.0	4.0	0.0	

科目名	介護・福祉サービスの理解と医療との連携(T第四章 介護・福祉サービスの基本)			
到達目標	○介護保険制度や障害福祉制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ等について、その概要のポイントを列挙できる。			
指導の視点	○介護保険制度・障害福祉制度を担う一員として、介護保険制度の理念に対する理解を徹底する。 ○利用者の生活を中心に考えるという視点を共有し、その生活を支援するための介護保険制度、障害福祉制度、その他の制度のサービスの位置づけや、代表的なサービスの理解を促す。			
授業項目	時間数	通学	通信	学習のポイント
介護保険制度 (T第一節 介護保険制度の基本)	1.5	1.5	0.0	・介護保険制度が創設された背景を理解したうえで、制度の目的と動向について学ぶ ・介護保険制度の基本的なしくみを理解する
医療との連携とリハビリテーション (T第二節 介護と医療の連携)	0.5	0.5	0.0	・在宅における看護職の役割・連携について理解する ・訪問リハビリテーションについて学ぶ
障害福祉制度の基本とその他の制度 (T第三節 障害福祉制度の基本とその他の制度)	1.0	1.0	0.0	・障害福祉制度の理念と障害者総合支援法 ・個人の権利を守る制度の概要
授業時間数合計	3.0	3.0	0.0	

<b>科目名</b>	<b>介護におけるコミュニケーション技術 (T第五章コミュニケーションの方法)</b>				
<b>到達目標</b>	○高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、生活援助中心型サービスの職務に従事する者として最低限の取るべき(取るべきでない)行動例を理解する。				
<b>指導の視点</b>	○利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考えさせ、相手の心身機能に合わせた配慮が必要であることへの気づきを促す。 ○チームケアにおける専門職間でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解するとともに、記録等を作成する介護職一人ひとりの理解が必要であることへの気づきを促す。				
<b>授業項目</b>	<b>時間数</b>	<b>通学</b>	<b>通信</b>	<b>目標・講義内容・学習課題の概要等</b>	<b>学習のポイント</b>
介護におけるコミュニケーション (T第一節コミュニケーションの基本)	3.0	3.0	0.0	・コミュニケーションの意義、目的、役割 ・コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション ・利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ・利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際	・「共感」「受容」「傾聴的態度」などコミュニケーションの技法を学ぶ ・家族が抱きやすい感情と、介護職が持つべき視点を理解する ・事例を通して、利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの実際を理解する
介護におけるチームのコミュニケーション (T第二節職員同士のコミュニケーション)	3.0	3.0	0.0	・記録における情報の共有化 ・報告 ・コミュニケーションを促す環境	・介護における記録の意義と目的を理解し、書き方の留意点などについて学ぶ ・報告・連絡・相談(ホウレンソウ)の意義と方法を学ぶ ・会議の意義と目的を理解し、具体的な進め方について学ぶ
授業時間数合計	6.0	6.0	0.0		

<b>科目名</b>	<b>老化と認知症の理解(T第六章老化と認知症の理解)</b>				
<b>到達目標</b>	○加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解する。 ○介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症ケアの基本を理解する。				
<b>指導の視点</b>	○高齢者に多い心身の変化、疾病の症状等について具体例を挙げ、その対応における留意点を説明し、介護において生理的側面の知識を身につけることの必要性への気づきを促す。 ○認知症の利用者の心理・行動の実際を示す等により、認知症の利用者の心理・行動を実感できるよう工夫し、介護において認知症を理解することの必要性への気づきを促す。 ○複数の具体的なケースを示し、認知症ケアの基本についての理解を促す。				
<b>授業項目</b>	<b>時間数</b>	<b>通学</b>	<b>通信</b>	<b>目標・講義内容・学習課題の概要等</b>	<b>学習のポイント</b>
老化に伴うところからの変化と日常生活 (T第一節老化によるところからの変化)	1.0	1.0	0.0	・老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ・老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響	・老化に伴うところからの変化の特徴を理解する ・老化に伴うところからの変化が、日常生活に及ぼす影響を理解する
高齢者と健康 (T第二節高齢者に多い病気と症状)	2.0	2.0	0.0	・高齢者に多い症状と病気の特徴	・高齢者の多くにみられる病気の特徴について理解する
認知症を取り巻く状況 (T第三章認知症の基礎知識P155迄)	1.5	1.5	0.0	・認知症ケアの理念	・認知症ケアの理念、ケアの基本的な視点について理解する
医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 (T第三章認知症の基礎知識P156～)	2.5	2.5	0.0	・認知症の概念 ・認知症の原因疾患とその病態	・認知症の定義、物忘れとの違い、せん妄の症状を理解する ・認知症の原因となる病気やその症状、治療法について理解する
認知症によるところからの変化と日常生活 (T第四節認知症によるところからの変化)	1.5	1.5	0.0	・認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ・認知症の人への対応	・認知症の症状と、認知症による生活の変化を理解する ・認知しようの人への対応とケアの仕方について理解する
家族への支援 (T第五節家族への支援)	0.5	0.5	0.0	・家族の心理とレスパイトケア	・家族介護者の介護の大変さについて理解し、レスパイトの重要性を学ぶ
授業時間数合計	9.0	9.0	0.0		

<b>科目名</b>	<b>障害の理解(T第七章 障害の理解)</b>				
<b>到達目標</b>	○障害の概念とICFの種類と基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解する。				
<b>指導の視点</b>	○高齢者の介護との違いを念頭におきながら、それぞれの障害の特性と介護上の留意点に対する理解を促す。				
<b>授業項目</b>	<b>時間数</b>	<b>通学</b>	<b>通信</b>	<b>目標・講義内容・学習課題の概要等</b>	<b>学習のポイント</b>
障害の基礎的理解 (T第一節1と2)	1.0	1.0	0.0	障害の概念と基本理念	・障害の概念とICFについて理解する ・障がい福祉の基本理念を学ぶ
障害の医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かわり支援等の基礎的知識(T第一節3)	1.5	1.5	0.0	・障害の種類と生活上の留意点	・障害の種類や特性を学ぶ ・それぞれの障害に応じた対処方法や支援上の留意点を理解する
家族の心理、かわり支援の理解 (T第二節家族への支援)	0.5	0.5	0.0	・家族への支援	・家族にはどのようなかわりや支援が求められるか理解する ・家族が障害を受け入れる心理を学ぶ
授業時間数合計	3.0	3.0	0.0		

<b>科目名</b>	<b>ところからの変化と生活支援技術 I 基本知識の学習(T第八章ところからの変化)</b>				
<b>到達目標</b>	○介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する基礎的知識を習得し、生活援助中心型サービスの安全な提供方法を理解する。				
<b>指導の視点</b>	○生活援助を中心とする介護実践に必要なところからの変化の基礎的知識を理解させ、具体的な身体機能の概要が理解できるよう促す。				
<b>授業項目</b>	<b>時間数</b>	<b>通学</b>	<b>通信</b>	<b>目標・講義内容・学習課題の概要等</b>	<b>学習のポイント</b>
介護の基本的な考え方 (T第一節介護の基本的な考え方)	1.5	1.5	0.0	・理論に基づく介護 ・法的根拠に基づく介護	・介護の基本的な考え方を学ぶ ・介護保険法に示されている介護の在り方を学ぶ
介護に関するところからの変化の基礎的理解 (T第二節ところからの変化)	2.0	2.0	0.0	・感情と意欲の基礎知識 ・自己概念と生きがい ・老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因	・ところからの変化の中で介護職が知っておきたい感情と意欲、感情・思考・意欲の関係について学ぶ ・老年期の幸福感に影響を与える、自己概念や生きがいについて理解する ・老化や障害を受け入れるプロセスと介護職の役割を理解する
介護に関するところからの変化の基礎的理解 (T第三節ところからの変化)	4.0	4.0	0.0	・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ・骨・関節・筋に関する基礎知識、 biomechanicsの活用 ・中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ・自律神経と内部器官に関する基礎知識 ・ところからの変化を一体的に捉える ・利用者の様子の普段との違いに気づく視点	・生命の維持するしくみを理解する ・ところからの変化のつながりについて理解する

<b>科目名</b>	ところとからだのしくみと生活支援技術Ⅱ 生活支援技術の講義・演習(T第9章介護の仕事に必要な知識と技術)				
<b>到達目標</b>	○尊厳を保持し、その人に自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。				
<b>指導の視点</b>	○サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとっての生活の充足を提供し、かつ不満足を感じさせない技術が必要となることへの理解を促す。 ○「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるように、身近な素材からの気づきを促す。				
<b>授業項目</b>	<b>時間数</b>	<b>通学</b>	<b>通信</b>	<b>目標・講義内容・学習課題の概要等</b>	<b>学習のポイント</b>
生活と家事 (T第1節生活と家事)	3.0	3.0	0.0	・生活と家事の理解 ・家事援助に関する基礎知識と生活支援	・利用者が日常生活を続けていくための支援とは何かを理解する ・支援が利用者の生活の質や健康の維持に役に立つことを理解する
快適な居住環境整備と介護 (T第2節住環境の整備)	2.0	2.0	0.0	・快適な居住環境に関する基礎知識 ・高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具の活用	・なぜ高齢者にとって居住環境が重要なのかを学ぶ ・快適で安全な居住環境をイメージできるようになる
移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 (T第3節 移動・移乗の介護の基本)	4.0	4.0	0.0	・移動・移乗に関する基礎知識 ・移動・移乗に関する福祉用具とその活用方法 ・利用者・介助者にとって負担の少ない移動・移乗の支援 ・移動・移乗を阻害する要因の理解とその支援方法 ・移動と社会参加の留意点と支援	・移動・移乗の意義と目的を理解する ・利用者の自立心や自然な動きを妨げない介助を学ぶ
食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 (T第4節食事介護の基本)	2.5	2.5	0.0	・食事にに関する基礎知識 ・食事環境の整備と食事に関連する用具の活用方法と食事形態とからだのしくみ ・楽しい食事を阻害する要因の理解と支援方法 ・食事と社会参加の留意点と支援	・良い食事が日常生活にどのような効果をもたらすかを理解する ・咀嚼と嚥下のしくみを学ぶ
睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 (T第5節睡眠介護の基本)	2.0	2.0	0.0	・睡眠に関する基礎知識 ・睡眠環境の整備と関連する用具の活用方法 ・快い睡眠を阻害する要因の理解と支援方法	・生活リズムと睡眠のメカニズムを理解する ・良質の眠りがもたらすメリット、不眠がもたらすデメリットを学ぶ
死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護 (T第6節週末期の介護の基本)	1.0	1.0	0.0	・終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ ・生から死への過程 ・「死」に向き合うことへの理解 ・苦痛の少ない死への支援	・死へ向かう人のところとからだの変化について理解する ・終末期ケアにやける介護職の役割を学ぶ

<b>科目名</b>	ところとからだのしくみと生活新技術Ⅲ 生活支援技術演習(T第10章 生活援助技術演習)				
<b>到達目標</b>	○生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れを理解する。				
<b>指導の視点</b>	○介護過程の基本的な流れと目的・意義を理解し、根拠に基づいた介護の重要性を理解する。				
介護課程の基礎的理解 (T第1節介護課程の基礎的理解)	2.0	2.0	0.0	・根拠に基づいた介護の実践	・介護過程の目的と課程を理解する ・介護過程の根拠ある重要性を学ぶ
<b>授業時間数合計</b>	<b>24.0</b>	<b>24.0</b>	<b>0.0</b>		

<b>科目名</b>	振り返り(T研修を終えての振り返り)				
<b>到達目標</b>	○研修体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再度確認をすると共に、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識を図る。				
<b>指導の視点</b>	○研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを演習等で受講者自身に表出・言語化させたうえで、利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について講義等により再確認を促す。 ○修了後も継続的に学習することの重要性について理解を促し、受講者一人ひとりが今後何を継続的に学習すべきか理解できるように促す。 ○介護職の仕事内容や働く現場、事業者等における研修の実例等について、具体的なイメージを持たせるような教材の工夫、活用が望ましい。 (視聴覚教材、現場職員の体験談、サービス事業所における受講者の選択による実習・見学等)				
<b>授業項目</b>	<b>時間数</b>	<b>通学</b>	<b>通信</b>	<b>目標・講義内容・学習課題の概要等</b>	<b>学習のポイント</b>
振り返り (T研修を終えての振り返り 1)	1.0	1.0	0.0	科目ごとに振り返り、総復習を行う	
就業への備えと研修修了後における継続的な研修 (T研修を終えての振り返り 2と3)	1.0	1.0	0.0	・介護職に就く、続ける上で、継続的に学ぶこと、研修修了後における継続的な研修について、実例等を紹介する。	・質疑応答を通じて、理解不十分な点の見直しと学習を行う ・OJTやOFF-JTを通じて学び続けることの紹介をし、学ぶ
<b>授業時間数合計</b>	<b>2.0</b>	<b>2.0</b>	<b>0.0</b>		
<b>総授業時間数</b>	<b>59.0</b>	<b>59.0</b>	<b>0.0</b>		